



平和を願う様々な団体が「ピースフェスタ」を港南区民文化センターを会場に、多彩なプログラムで企画していきましたが、今回 22 回目となりました。夫が実行委員会から浜矩子氏に講演を依頼してほしいと頼まれました。浜氏は快諾して下さり、楽しみに待っておりました。ところが直前に、突然母上がご病気になり、付き切りの看護が必要になられたため、キャンセルとなりました。とても残念でしたし、4 日前のことでもあり、大変気を揉んだのですが、ドイツ文学翻訳家の池田香代子氏がバトンタッチされ、無事に、とても充実した講演を伺うことが出来ました。浜氏の母上も一日も早く回復されますようにと心よりお祈りいたします。



池田氏は『世界がもしも 100 人の村だったら』を出版され、『ソフィの世界』の翻訳を出されて、多くの子ども達に影響を与えてられました。氏の演題は「教室に忍び込む日本会議史観」でした。

ネット上で「炎上」という言葉を見聞きしています。最近では自民党衆院議員の杉田水脈氏が有名です。それは「LGBT のカップルは生産性がないのです」「LGBT の知識を学校教育で教える必要ありません」という杉田議員の発言が問題視されているのです。国民の幸せのために働くべき国会議員が差別発言をし、しかも教育に絡めて扱っています。ネットでは賛否で「炎上」しました。

若い世代はネットで情報を得ていますので、ネットの影響力は大きですが、ネットを管理したり、拡大を把握することはとても困難です。YOU-TUBE、フェイスブック、ブログ上に、差別発言、ヘイトスピーチが投稿される場合は、広告も入りますので、広告側のイメージダウンを避けるため、それを監視し、プロバイダーに通告する人々がいるとのこと。そんなに細かく監視しなければならないとは驚きですが、これが功を奏し、ヘイトスピーチがなされた場合には、すぐに凍結、削除されるようになってきたとのこと。杉田氏の発言も削除されるべきものでしょう。けれどもただ削除されるだけではすみません。この杉田議員は「日本(ニッポン)会議」のメンバーで、日本会議の意図に沿った発言をしているのです。「生産性がない」という発言は優生思想とリンクし、LGBT を学校教育から排除する姿勢を見せているのです。学校の教室の中で子どもたちが読む教科書に日本会議の意図が潜んでいます。

一つの例として、「命のビザ」で著名な杉原千畝元外交官(1900-1986)が教材となっています。彼は本国からの訓令に逆らい、人道上拒否できないと独自に判断して、6000人余のユダヤ人にビザを発給したのですが、帰国後、命令違反を咎められ依願退職を求められました。ところが教科書では、杉原千畝の独自の判断ではなく、1919 年、国際連盟で日本が「人種差別撤廃提案」を出したことを持ち出し、日本はもともと民族差別には反対であったと付け加えています。この提案は「黄色人種に対する人種的偏見(日系移民排斥)のために、日本が不利に陥ることのないようにせよ」とする本国からの訓令を解釈したものであったのです。また、「記録を見れば彼を免職させたとの記載はない」と依願退職を迫った事実を隠蔽し、きれいごとに行っています。自国至上主義になり、関係ない史実を歪曲して関連づけたり、事実を隠蔽したりして、嘘の教科書が作られているのです。

間違った過去の事実にも向き合い、正し、新たにやり直していくのが誠実な道です。最近、暴言を「誤解を招きかねない発言だった」と言い訳し、撤回して、平気な顔をする議員が多いのですが、彼らこそ、自分の「誤」を謙虚に認めるべきです。私たちは歴史の事実に向き合わなければ、新しい道は見えてきません。まやかしの自国至上主義にとらわれてはなりませんと訴えられました。